

する。ろ液 10 mL にエタノール (95) 5 mL を加えるとき、液は澄明である。

定量法 本品約 0.15 g を精密に量り、共栓遠心沈殿管に入れ、希エタノール 25 mL を加え、ときどき振り混ぜながら 50 °C で 30 分間加熱する。冷後、遠心分離し、上澄液を分取する。残留物は更に希エタノール 20 mL を加え、同様に操作する。全抽出液を合わせ、希エタノールを加えて正確に 100 mL とし、試料溶液とする。別にグリチルリチン酸標準品 (別途水分を測定しておく) 約 0.02 g を精密に量り、希エタノールに溶かして正確に 100 mL とし、標準溶液とする。以下「カンゾウ」の定量法を準用する。

$$\begin{aligned} & \text{グリチルリチン酸 (C}_{42}\text{H}_{62}\text{O}_{16}) \text{ の量 (mg)} \\ & = \text{脱水物に換算したグリチルリチン酸標準品の量 (mg)} \\ & \quad \times \frac{A_T}{A_S} \end{aligned}$$

貯法 容器 気密容器。

カンゾウ粗エキス

Crude Glycyrrhiza Extract

甘草蒸

本品は定量するとき、グリチルリチン酸 (C₄₂H₆₂O₁₆: 822.93) 6.0 % 以上を含む。

製法 本品は「カンゾウ」又は「カンゾウ」の規格に合致する同属植物 (*Leguminosae*) 由来の根及びストロンの粗末に「常水」又は「精製水」を加えて煮沸し、加圧ろ過して得たろ液を蒸発して製する。

性状 本品はつやのある暗黄赤色～黒褐色の板状、棒状若しくは塊状又は黄褐色の粉末である。本品で板状、棒状又は塊状のものは、寒冷時は砕きやすく、その破砕面は暗黄赤色で、貝がらのようでつやがあり、温時は柔軟性である。

本品は特異なおいがあり、味は甘い。

本品は水に混濁して溶ける。

確認試験 本品 0.6 g にエタノール (95) /水混液 (7:3) 10 mL を加え、必要があれば加温して溶かし、冷後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とする。以下「カンゾウ」の確認試験を準用する。

純度試験

(1) 水不溶物 本品の粉末 5.0 g に水 100 mL を加えて煮沸し、冷後、質量既知のろ紙を用いてろ過し、水洗した後、残留物を 105 °C で 5 時間乾燥するとき、その量は 1.25 g 以下である。

(2) 異物 (1) のろ液は強い苦味がない。

(3) でんぷん 本品の粉末約 1 g に水を加えて 20 mL とし、よく振り混ぜてろ過し、ろ紙上の残留物を鏡検するとき、でんぷん粒を認めない。

灰分 12.0 % 以下 (1 g、生薬試験法の灰分の項を準用する)。

定量法 本品約 0.15 g を精密に量り、共栓遠心沈殿管に入れ、希エタノール 25 mL を加え、ときどき振り混ぜながら 50 °C で 30 分間加熱する。冷後、遠心分離し、上澄液を分取する。残留物は更に希エタノール 20 mL を加え、同様に操作する。全抽出液を合わせ、希エタノールを加えて正確に 100 mL とし、試料溶液とする。別にグリチルリチン酸標準

品 (別途水分を測定しておく) 約 0.02 g を精密に量り、希エタノールに溶かして正確に 100 mL とし、標準溶液とする。以下「カンゾウ」の定量法を準用する。

$$\begin{aligned} & \text{グリチルリチン酸 (C}_{42}\text{H}_{62}\text{O}_{16}) \text{ の量 (mg)} \\ & = \text{脱水物に換算したグリチルリチン酸標準品の量 (mg)} \\ & \quad \times \frac{A_T}{A_S} \end{aligned}$$

貯法 容器 気密容器。

カンテン

Agar

AGAR

寒天

本品はマクサ (テングサ) *Gelidium amansii* Lamouroux, その他同属植物 (*Gelidiaceae*) 又は諸種紅そう類 (*Rhodophyta*) から得た粘液を凍結脱水したものである。

性状 本品は半透明な白色で、四面柱体、線状又はりん片状の細片で、四面柱体のものは長さ約 26 cm、切り口約 4 cm 平方、線状のものは長さ約 35 cm、幅約 3 mm、りん片状のものは長さ約 3 mm の細片で、外面にしわ及び多少の光沢があり、質は軽くしなやかである。

本品はにおいがなく、味はないが粘滑性である。

本品は有機溶剤にほとんど溶けない。

本品の沸騰水溶液 (1 → 100) は中性である。

確認試験

(1) 本品の破片にヨウ素試液を滴加するとき、暗青色～帯赤紫色を呈する。

(2) 本品 1 g に水 65 mL を加え、10 分間絶えずかき混ぜながら煮沸して溶かし、蒸発した水分を熱湯で補う。この液は澄明であり、30 ~ 39 °C に冷却するとき、弾力性のゲルとなり、これを加熱するとき、85 °C 以下で溶けない。

純度試験

(1) 硫酸 本品 1.0 g に水 100 mL を加え、煮沸して溶かすとき、液は酸性を呈しない。

(2) 亜硫酸及びでんぷん (1) の液 5 mL にヨウ素試液 2 滴を加えるとき、試液の色は直ちに消えない。また、液は青色を呈しない。

(3) 不溶物 本品 7.5 g に水 500 mL を加え、15 分間煮沸した後、水を加えて正確に 500 mL とし、この液 100 mL を正確に量り、熱湯 100 mL を加え、沸騰するまで加熱し、質量既知のガラスろ過器 (G3) を用いて熱時ろ過し、残留物を少量の熱湯で洗い、105 °C で 3 時間乾燥するとき、その量は 15.0 mg 以下である。

(4) 水分吸収度 本品 5.0 g に水を加えて 100 mL とし、よく振り混ぜ、25 °C で 24 時間放置した後、潤したガラスウールを用いて 100 mL のメスシリンダーにろ過するとき、ろ液の量は 75 mL 以下である。

乾燥減量 22.0 % 以下 (6 時間)。

灰分 4.5 % 以下。

酸不溶性灰分 0.5 % 以下。